

## 平成26年度第3回 函館市観光アドバイザー会議 会議録

### ■ 開催概要

開催日時：平成27年3月19日（木） 18：30～20：00

開催場所：函館市総合福祉センター 3階 第1会議室

出席委員：奥平委員，畠山委員，安井委員，内沢委員，金道委員，木村委員，須田委員，  
渡邊委員

欠席委員：尾山委員，佐藤委員

函館市：観光部次長，同観光振興課長，同コンベンション推進課長

### ■ 次第

1 開 会

2 議 事

(1) 平成27年度観光部関連予算の主な内容について

(2) 平成27年度市政はこだて掲載記事について

(3) 青函圏の未来について

3 そ の 他

4 閉 会

### ■ 議 事

(1) 平成27年度観光部関連予算の主な内容について

(奥平座長)

事務局より，平成27年度の予算および第2回函館観光アドバイザー会議での各委員からの意見に対する予算措置状況についての説明があったが，第2回の会議において意見を述べた各委員から，事務局の回答に対しての意見や感想をいただきたい。

(金道委員)

私からは，新幹線の新駅から現駅までのアクセス列車に対する要望として，「指宿のたまたま箱」のような観光列車の導入ということでお話させていただいたが，JRから発表された資料を見た限りでは，どの辺りが函館らしさや独自性なのか，どのように利用者に分かりやすく伝わり，「指宿のたまたま箱」のようにユーモアがどのように表現されているかが伝わってこない。個人的にはもう少し考える余地があったのではと思う。

(安井委員)

私からは，観光客目線で考え，函館に来て何をするのかというストーリーを考えなが

らまちづくりに取り組むべきとお話させていただいたが、そもそも外国人の方がどのように函館市を見ているのか、どのような所で困っているのか等も考えた上での対応が必要と思うので、その辺りを調査してみるのもよいのでは。一つ一つの対応策を考えるのも重要だが、それだけでは何か見落とししているものがあるかもしれない。

(内沢委員)

他都市の状況を見てきた上で外国語表記を増やすべきとお話させていただいたが、リーフレット類の外国語表記については既に当たり前になっている。以前、海外の方と一緒に、木古内駅を起点として木古内～松前線のバスに乗ってもらい、こちらからは何も教えずに松前を観光できるかという実験を行ってみたが、駅を下りてからの導線の中で、彼らから様々な意見が出され、様々な発見があった。その中で、マップについて「この目印で下りなさい」と表示してあっても、その目印がバスの左手に見えるのか右手に見えるのかなども示さなければ、景色を見ていると目印を見落としてしまうことがあり、海外の方にとってバス等を利用することは非常に不安に感じる事がわかった。ちょっとした情報を付け加えるだけで、彼らに安心感を与えることから、ポータルサイトやリーフレットなど作成する際には、海外の方にも安心感を与えられるよう、是非考慮してほしい。

(渡邊委員)

先日出席した別の会議で、北陸新幹線が開業した金沢市において、MICEに非常に力を注いでいるという情報があり、ぜひ函館市でも資料等を取り寄せ、良いアイデアを取り入れてはどうかという意見が出されたので、事務局にお伝えしておく。

予算についての質問だが、平成26年度2月補正予算にある「新幹線開業おもてなし経費」中、「北海道新幹線開業おもてなし隊設置経費」は、具体的にどのような経費なのか。

(事務局)

H27年度繰越明許費ということで予算を組んでおり、平成28年3月の開業日から3月31日までの2～3週間分の経費。事業の内容についてはまだ確定していないが、今年度、五稜郭公園にて実施した「おもてなし隊」のように、例えばアクセス列車で来られた方に対して、JR函館駅構内で時代衣装を着用しておもてなしをするといったことを含めて何ができるのか、また、函館市だけでなく観光協会や市民総出でのおもてなしということも視野に入れながら考えていきたい。

(木村委員)

縄文文化の活用をとということでお話させていただいたが、レンタカー周遊コースの造成に力を入れるのは大変良いことだと思う。ただ、レンタカーに乗らないで観光される方もおり、もう少し気楽にアクセスできる方法を考えていただきたい。

(須田委員)

木村委員の発言に関連して、外国人に対してレンタカーの周遊モデルコースを造成す

るというのはどういう意味なのか？

(事務局)

今、台湾やシンガポールの方が、千歳空港で入国・函館空港で出国というルートの中で、レンタカーを自らが運転して観光するという方が増えているという事情がある。そういった方に対し、モデルコースを提案するもので、千歳市などの他の沿線自治体と一緒に進める予定で、函館市としては、縄文文化をモデルコースに入れることを検討する。

(須田委員)

外国人に限らず、免許を持っていない方が函館近辺を周遊したいというニーズはあると思うので、タクシーもあるが、もっと安価にバスを利用して大沼の景色を見に行ったり、南茅部の縄文文化交流センターに行ったりというような、周遊ツアー等を企画できればニーズとも合ってくるのでは。

(事務局)

広域連携ということで、道南各地で取り組みを進める中で、国内観光客向けの周遊等も検討しているが、縄文文化に特化した商品になると、点在しているものをどう見せるのか、またニーズに合ってくるのかという話にもなり、その辺りも含めて検討していきたいと考えている。

(畠山委員)

航空路線への対応について、対応方針が消極的な感じがする。北陸の場合は空港から市内への距離が遠いことから、新幹線開業が市内への時間距離を縮めるということになるが、函館の場合は空港と市内へのアクセスの良さを考えると、外国人や東京圏、東北新幹線沿線以外の地域の方にとっては、飛行機の方がニーズがあると考えている。LCCを含む航空会社への対応が消極的だと、後が怖い。担当部局にその旨を伝えてほしい。

(奥平座長)

畠山委員の発言のように、新幹線だけ見ていけばいいのかという話が出てくる時期に来ている。総合的な交通体系の中で、函館市が観光をどうしていくのかということが問われているのだろう。

## (2) 平成27年度市政はこだて掲載記事について

(奥平座長)

これまでに内沢委員まで終了したということで、平成27年度は尾山委員から順に記事を担当するというようお願いしたい。尾山委員は本日欠席されていることから、事務局から連絡をお願いする。

### (3) 青函圏の未来について

(奥平座長)

北海道新幹線開業に向けて準備が進んでいるところだが、開業後を見据えての取り組みも始めていかなければならない時期に来ている。これまでも青函圏において広域連携に取り組んでいるが、今後はどのような方向性で進めていくべきか、委員の方々には自由に発言していただき、そこから出たアイデアを吸収し、活用していくきっかけにしたい。まずは渡邊委員に、青函トンネル開業時に到来した函館ブームから27年が経過したが、北海道新幹線開業ということで2回目の函館ブームが来るかもしれないが、1回目のブームの時の金森赤レンガ倉庫群の話も交えながら、話をいただきたい。

(渡邊委員) 27年前、青函トンネル開業に合わせ、倉庫群を現在のような商業施設としてオープンしたが、それ以前は、夜になると誰一人として人が歩いていない状況だった。しかし、トンネルの開業と同時に青森側から多くの観光客に来ていただき、函館ビヤホールでは昼間でも行列ができるという状態が2年程続いた。

当時と現在で違うことは、トンネル開業時には外国人観光客が少なかったこと。もう一つは、以前は観光プロモーションに対して、さほど積極的でなかったように感じる。今は函館市や観光協会、民間の方が様々な場所でプロモーションされたことにより、函館市はメジャーな都市になってきている。ブランド総合研究所の結果では、最も魅力的な市区町村で函館市が第1位になり、函館と言えば「これ」ということを日本の方は知っているのだろう。今後はそこにどう付加価値を付けていくのかということを考えていく必要がある。市長が言うように、函館に1泊しかしない方を2泊、3泊にすることで、全体のキャパはそれほど増えなくとも、宿泊数を増やすことで函館に落ちるお金を倍にしていくという考え方はいいと思う。また、青函圏での取り組みについて、函館の観光圏を青森まで広げていくのは正しいと思うので、今後も継続してほしい。函館は国内の観光客に対しての経験は蓄積されているが、インバウンドにどう対応してかが問題。青函圏においては、青森側とも情報やスキルを共有しながら進めていければと思う。

(畠山委員)

8年前に東京からこちらに移り住んできた私にとって、青函というのはやはり遠く感じる。青函圏での交流は経済圏でも観光分野でもそれなりにやってきているが、私から見るとやりつくしている感がある。しかし、これから更に連携を進めたいというのであれば、一つの例として、道州制の議論が起こった際にあつたように、函館は北海道から、青森は東北から抜けて新たに州を作るといった、次元を一つ超えるような取り組みが必要になってくるのではないかと感じる。また、これまで青函圏として何をやってきたのかをまとめた成果物がないと思うので、そういったものがあれば市民が活発に議論できると思う。

(奥平座長)

青函ツインシティ提携25周年の歴史をまとめるなどの取り組みも一つの方法なので、ということ、ご検討いただければと思う。

(安井委員)

函館と青森で様々なお土産があるが、函館と青森の名物が一緒になった商品があればいい。観光客から見て何か繋がっていることを感じられる、分かりやすいシンボルが必要である。

(金道委員)

「海峡マグロ」という呼び方があり、戸井や松前、大間で取れるマグロは同じ海峡にいるものなので、食べ比べなどの体験などができれば。それぞれマグロの締め方が異なると聞いたことがあるので、それによって味に違いが出れば面白い。

(須田委員)

両方の街に魅力があつてこそ人の行き来があると思うので、青森の魅力を探しながら、函館の魅力とリンクさせ、交流を進めていくべきだと思う。

(木村委員)

中国圏、韓国からの観光客に限ってのことかも知れないが、北海道としての函館に来るというような考えがあり、札幌・小樽・函館というように道内の観光地を周遊する方が多い。そうすると青森に目を向けるのはなかなか難しい。また、新幹線開業により函館ー青森間の時間は短縮できるが、乗り換えがあると、外国人にとっては負担。その辺りを改善できる方法があればと思う。

(内沢委員)

先日、新幹線が開業したばかりの金沢の様子を視察したが、観光客として訪問した際に、現地の方との会話の中で、美味しいものの情報や観光場所などを聞くことができ、やはり「人」の重要さを感じた。例えば、函館のガイドさんから「次は青森に行って、こういうところを見て」と紹介されれば、「45分かかるけど青森に行ってみようか」という気持ちになるのでは。逆に、青森にもそのような方がいて、青森を案内してもらった際に、「函館にはこういうところがあるよ」と紹介していただければ、受け入れてもらいやすいのではと感じた。青函の人と人を繋げようというのは難しいかもしれないが、ガイドさんのように地元の良さをアピールしている人たちが、互いの良さを宣伝することで、函館を青森をもっと身近に感じ、行ってみようという気持ちが生まれるのでは。

(金道委員)

以前、青森県立美術館や十和田現代美術館を訪れた際、美術館のなかに観光コンシェルジュがおり、観光案内も同時に行っていた。美術館を起点にした観光もなかなか面白いと感じた。函館にも道立美術館もあることから、青森と連携したような企画で、3つの美術館を巡るというコースがあると、周遊できるかと思う。

また、温泉について、青森には蔦温泉や酸ヶ湯、浅虫、黄金崎不老不死などの有名な温泉や秘湯があり、また、道南にも湯の川や恵山、知内、濁川などがあるので、交通が

課題になるかと思うが、広域での湯巡りを仕掛けてみるのも面白いのではと思う。

(渡邊委員)

函館で、何か新しい素材として売っていかうかと考えた時に、なかなか出てこない。最近では金沢の新幹線開業の報道をよく目にし、函館も来年はこうなるのかと期待もするが、その期待の裏で、函館はどこを紹介するのだろうかと考えた時に、函館市と北斗市だけの素材では弱いと感じる。城がある松前や、北海道では歴史が古い江差、もっと歴史の古い縄文文化など、うまく拾いながら開業に向けて取り組まなければならない。青函圏にある都市部だけでなく大間などの小さい市町村も含めて、どうやって一緒に商品造成できるのか考える必要があると感じる。

(奥平座長)

「観光コンテンツ」が一つのキーワードになっているが、話を聞くと、そのコンテンツを「繋げる」「発掘する」のが函館は弱いように思えた。また、この話の中で、函館の人間が「青森を知ろうキャンペーン」というものやってもいいように思えた。かつて青函連絡船があった頃は、人的交流が盛んだった。しかし青函トンネル開業により交流がなくなり、この27年間は実は失われた27年間だったのかもしれない。そのことが互いのイメージの希薄化に繋がっているのではと感じた。函館ー青森間の片道4時間が2時間になったことが、希薄化につながったのであれば、新幹線開業により片道1時間を切った際には、同じことを繰り返しかねないということも感じた。

観光においては交流人口がどれだけ動くかによってどれだけ経済効果が生まれるかという話になるが、今までの観光の常識であった、国内だけを相手にしていればよい時代から、そうではない新しい時代に突入しようとしている。インバウンドが一つのキーワードになるが、インバウンドも含めて観光客をどう扱っていくのか、函館や青森に来るインバウンドの方をどのように互いに行き来させるのかを考える時期に来ているのかもしれない。

今回の会議をもって、今年度の活動は終了となるが、今後は観光基本計画のインバウンドの目標値の見直し作業も入ってくると思われるので、来年度もよろしく願いたい。

## ■ その他

(須田委員)

駅前の再開発ビル「キラリス函館」の中身はどんなものか。

(事務局)

3階と4階に「はこだておもしろ館」と「子育て世代活動支援プラザ」を市で整備することで進めている。「はこだておもしろ館」については、子供世代にも楽しめるように、

先進技術を使ったアトラクションなども揃えながら子供世代から楽しめるような施設にしたいとして整備を進めている。「子育て世代活動支援プラザ」についても同じく子供と一緒に親も楽しめるような施設を建設するというので、この2つが市営の施設となる。残りの部分は店舗とマンションの予定。

(須田委員)

残念なのは、函館駅の周辺に観光客を呼び込む施設としては程遠いこと。函館駅の周辺に、発展的な施設等が何も決まっていない状況で、寂しい新幹線開業を迎えそうだという思いがあり、もう少し駅前地区の活用の方法を検討するべきではないかを感じる。

(内沢委員)

北陸新幹線開業の視察の中で、糸魚川駅を見学したが、この駅で降車する人を増やしたいということで、鉄道ファンを集めようと、実際に運行していた廃車両を購入して展示するなど、他とは違う目線に取り組んでいる。今後はSNSやロコミなどで話題を呼び、数年後は人が集まる駅になるのかもしれない。他と違う客層をターゲットにすることについて、可能性は十分にあると感じた。木古内駅でも、廃線となった江差線を活用したりなども面白いのでは。また、そこから檜山までいけるような仕組みが出来ても面白いと思う。

(畠山委員)

かつてのように、函館駅から青函連絡船の摩周丸まで、線路を繋げて船内まで乗り入れるというもの面白い。

(奥平座長)

摩周丸の話が出たが、青森にも八甲田丸があり、こういった素材でも青森とも連携できれば面白い。

## ■ 閉 会